

一の開放性とアピール力を高め、会員増強維持を図る

●戦略ポイント

- それぞれの能力、経験と考え方を生かし包摂（取り込んで育む＝インクルージョン）
- 会員増強の新たな手法
- 他団体等クラブ外への働きかけ（価値観が共有できる団体と）

●3年目標

- ①全てのメンバーが会員増強に関わり、会員数150名、女性会員20名を達成したい
- ②クラブ内外に強固で多様なネットワークを構築し、新しい参加経路を創出
- ③ロータリーを“理解”し、内外の他者へ発信（クラブ内へも発信）
- ④IAC（インターアクト）の強化と、RAC（ロータリーアクト）の再開を検討しては（新しい展開で）の再開を検討しては
- ⑤家族、会社との親睦や交流を深め、参加者の基盤を広げ多様化する（ロータリーへの関心を深めてもらう）

■戦略目標③

「参加者の積極的なかわりを促す」

ロータリーの奉仕の理念を理解し、親睦と交流を深め会員及び参加者の積極的な参加を促す

●戦略ポイント

- 会員出席率向上と参加者増加の手法
- 新たな会員、参加者との“交流”の方法
- 新会員対応や会員研修手法の確立（新人だけでなく中堅・ベテランへも対応）

●3年目標

- ①会員、参加者相互の交流の場を増やしロータリーを“楽しむ”機会を増やす
- ②ロータリー理解を促す研修を、各段階毎（新人・中堅・ベテラン）に実施し、リーダーの育成を図る
- ③世代を超えた人的・職業的繋がりを促し、クラブの人流を活発化する
- ③参加者中心のプログラムを開発し、会員満足度も向上させる

■戦略目標④

「適応力を高める」

リスクを恐れず変化をもたらす新しい視点や考え方を追求することで、クラブ強化と適応力を高める（新しい視点で新しい文化を）

●戦略ポイント

- 奉仕活動の成果の確認と見直し
- 組織体制、運営面の強化と簡素化
- 価値観を守りながら新時代へ適応

●3年目標

- ①奉仕事業の成果を見極め、事業の改善や継続を判断
- ②体制の“簡素化”によりスムーズな運営
- ③新たな交流手段としてSNS、Zoomなどの効果的なITの手法を取り入れる

④会員規模にあった例会運営の工夫（重点を置くものは重点を置く）

⑤組織体制を見直し、60周年“以降”の効果的な新体制の確立

「あくまでも3年計画です。

世の中の状況、時代にマッチしたものを作っていきたいと考えます。

年度年次目標は、それぞれの会長さんが作るものです。

3年計画の中の重点項目をお話しました」



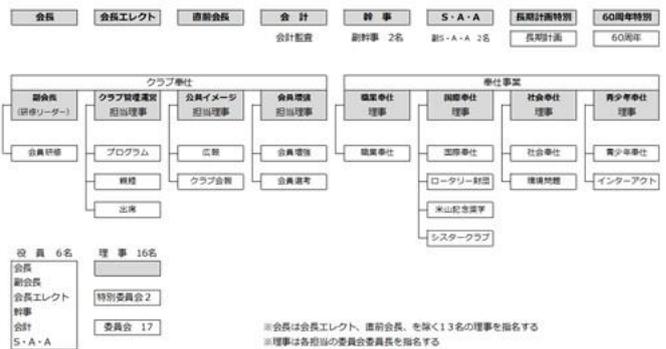
新しい組織計画について

■長期計画委員会 委員会幹事 内山 泰成



「適応力を高める」のひとつ、組織を簡略化、組織体制を見直す → 新しい組織図を

大宮西ロータリークラブ組織図（案）2022～23年度



①縦系列から、横に並ぶ形（文鎮型）にと配慮

②理事が部門をまとめ、委員長が委員会を運営する形

③ロータリーの5大奉仕にこだわりクラブ・職業・国際・社会・青少年の5つの奉仕部門委員会の役割が見えてくる財団部門は国際奉仕の一環とする